



寒地土木研究所千島桜並木一般公開

——足早い花見を200本の千島桜と——

寒地土木研究所には、構内を流れる精進川沿いに約200本の千島桜が植樹されています。この千島桜は昭和59年、当時の職員が「構内美化の為に皆が末永く楽しめる植物を植えたい」という願いから、道東の厚岸郡浜中町霧多布から苗木を取り寄せたのがはじまりでした。植樹当所は幼木だった桜も、現在は3～4mの高さにまで成長し、例年5月初旬には一斉に開花して、見る人の目を楽しませてくれます。

千島桜は北海道では道東や道北を中心に、本州では中部以北の亜高山帯、そして千島、サハリン等に自生している落葉低木で、2～2.5cm程度の淡紅色または白色の花をつける北方系の桜です。日本で最も遅く桜前線がたどり着く名所として根室の清隆寺が有名ですが、清隆寺の桜もこの千島桜です。

札幌の開花予想はソメイヨシノで行われていますが、職員の感覚としては例年ソメイヨシノの満開時期に比べ千島桜の満開時期の方が若干早いような気がします。寒地土木研究所千島桜並木の一般公開は毎年4月下旬から5月上旬を予定しています。開催日程は気温や桜の状態などを見ながら決定いたしますが、決定次第ホームページ上 (<http://www.ceri.go.jp/>) でお知らせしますので、是非一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

(文責：前 企画室 岡崎 紗也香)

* 寒地土木研究所へのアクセス、お問い合わせ先は、月報の背表紙裏をご覧ください。

